

6. 学術情報センター

学術情報センター長 兼平 千裕（放射線医学）（平成19年4月より）
同 図書館国領分館長 小澤 隆一（社会科学）（平成19年4月より）

1) 平成21年度統計（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

(1) 図書館

① 蔵書冊数	251,741冊
② 現在受入雑誌数	1,023種（和732種、洋291種）
③ 電子ジャーナル提供数	約4,300種
④ 館外貸出冊数	10,978冊
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出5,816件 借受4,391件
⑥ 複写サービス	600,941枚
⑦ 情報検索サービス	79,407件（代行とセルフサービスの合計）

(2) 国領分館

① 蔵書冊数	81,887冊
② 現在受入雑誌数	386種（和339種、洋47種）
③ 館外貸出冊数	7,860冊

(3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,735点
	顕微鏡標本	2,549点
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,754セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mm フィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	52セット
	語学プログラム	204セット
	その他	79セット

(4) 史料室

見学者数 404名（学内154名、学外250名）

(5) 写真室

① 撮影・スライド制作サービス	16件（877枚）
② レントゲンフィルム複製サービス	289件（2,583枚）
③ ビデオ編集サービス	55件（149時間）
④ カラープリント出力サービス	40件（1,558枚）
⑤ 35mm スライド入力サービス	29件（1,523枚）

2) 主な事項

(1) 医学部学生演習

医学科1年生と2年生を対象にした基礎的な情報検索演習（医学総論）と、医学科3年生と4年生の「臨床疫学コース」の情報検索演習、看護学科1年生の図書館利用指導を担当した。

(2) ネットワークを介した情報提供

電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。医学文献データベースであるMEDLINEと医学中央雑誌については、希望者を対象として、データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知している（AutoAlertサービス）。

また、平成20年度に引き続き、新聞4誌から医療関係の記事の見出しを電子メールで配信するサービスも実施した。

- (3) 学術リポジトリの構築
学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開する学術リポジトリの運用を担当している。東京慈恵会医科大学雑誌、Jikeikai Medical Journal、教育・研究年報、Research Activities、高木兼寛の医学、高木兼寛の生涯、Life of Kanehiro Takakiの内容を登録し、インターネットで参照できるようにした。
- (4) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2008（第28号）』および『Research Activities 2008』の編集担当
標記各年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (5) 東京慈恵会医科大学記録Ⅶ」の編集担当
平成16年度から20年度の標記大学記録について全学に原稿を依頼し、編集・出版の作業を担当した。
- (6) 医学論文書きかた講習会の開催
Jikeikai Medical Journal 編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催により、5月25日および6月5日に岡崎真雄准教授（学術情報センター）により英語で論文執筆の際の注意点について、また6月2日に諏訪邦夫先生（元帝京大学麻酔科教授）により「論文を書く技術：ファイルリンクを使おう」と題する内容についての講習会が開催された。また、大学院共通カリキュラムの枠へ統一のため、開催時間が平成21年度までの17時30分-19時が、18時-19時30分に変更された
- (7) 教材・研究資料の作製支援
学内教職員、学生、同窓生を対象に、静止画及び動画の撮影をはじめ、アナログ・デジタル写真の作製・加工、スライド作製、ビデオ編集のサービスを行っている。また35mmスライドをデジタルデータ化するサービスも行っており、パワーポイントファイル作製支援をしている。
- (8) レントゲンフィルムの複製
教育・研究用の資料として、他病院への診療情報提供、裁判所等への提出資料として、また病院保管用資料として用いるレントゲンフィルムのコピーを行っている。
- (9) 広報活動支援業務
広報活動支援業務として、学内行事の撮影、および保管している画像データの提供を行っている。
- (10) 情報技術支援業務
学事課・システム課・教育センターの職員との協力による情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当している。
- (11) リモートアクセスサービスの開始
電子ジャーナルおよびデータベースは大学ネットワーク上でのみ利用可能であったが、必要機器を導入して、学外（自宅や派遣先）からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」を開始した。
- (12) 「東京慈恵会医科大学創立130年記念誌編集委員会」への参加
東京慈恵会医科大学創立130年の記念式典並びに130年記念誌編集委員会への協力、史料室の史料提供も行っている。